

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	教職課程における「東洋史概論」「西洋史概論」等の効果的教育内容構成に関する研究
------	---

研究代表者

氏名 川手圭一	所属 人文社会科学系 人文科学講座歴史学分野	職名 教授
------------	------------------------------	----------

研究分担者

氏名 栗田伸子	所属 人文社会科学系 人文科学講座歴史学分野	職名 教授
田中比呂志	人文社会科学系 人文科学講座歴史学分野	教授
小嶋茂稔	人文社会科学系 人文科学講座歴史学分野	准教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

- 1) 現行の学習指導要領ならびに新課程のもとに編纂・刊行された中学校社会科の教科書、ならびに高等学校世界史の教科書の内容について分析を加えた。新課程においては、まず中学校社会科の教育内容が従前のそれに比較して増加していること、特に歴史的分野においては、外国史の内容が質・量ともに一定程度増加していることが確認できた。少なくとも中学校の教育内容で新たに付け加えられた内容については、大学の教職課程における「東洋史概論」「西洋史概論」等で適格に指導すべき必要があることが確かめられる。高等学校の教育課程は、学年進行で改訂が進められるため、今年度中に確認することができた教科書は限定的であるが、2012年度中に検定を終えた見本段階のもので確認可能であったものも含め、一定の分析を加えた。その結果、2006年に発覚したいわゆる「世界史未履修」問題の反省を踏まえてのことと思われるが、日本史や地理の内容を意識した教科書叙述やコラムの設定などが意識されていることが顕著に確かめられた。このことは、特に日本列島の歴史と世界史とが有機的に結びついていることが、特に教職課程段階では強調されるべきことを意味している。高等学校段階での世界史教科書は2014年にそのほぼ全容を確かめることが出来るので、この研究内容については、引き続き検証を深めていくことが必要であろう。
- 2) 2013年度に東洋史概論・西洋史概論(両科目ともカリキュラム上の位置づけは、初等教育教員養成課程社会選修選択必修科目・中等教育教員養成課程社会専攻必修科目)を担当した研究分担者の田中と研究代表者の川手は、上記1)の研究成果を意識して、概論の教育内容を編成し、授業を実施した。受講学生の反応は、学期末に実施した授業アンケートの結果を待つこととなるが、アンケート結果については、今後検証を深めることは必要となろう。
- 3) 神戸大学文学部、佛教大学歴史学部、東北学院大学文学部の教職課程に関して、外国史関係の科目が教職課程上どのように位置づけられているかを調査した。いずれも歴史学の専門学科の諸科目を、適宜編成しなめず形式「教科に関する科目」群が編成されていたものの、必ずしも教職課程上の「概論」科目であることが意識されているかは十分に確認することができなかった。科目担当者への聞き取り等まで調査を深めることができなかったのは反省材料であり、今後の課題である。
- 4) 研究成果をするために『教職を目指す人の世界史概論』の準備作業に着手したが、2013年度中の完成には到らなかった。引き続き、刊行に向けた編纂作業を進めていく。なお、本研究成果の一部は、2014年6月に刊行予定の『史海』第61号、ならびに2014年9月に刊行予定の『歴史評論』第774号に掲載される予定である。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]  
 ※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。  
 なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

2013年度中の刊行には致らなかったものの、本研究の成果は、大学の教職課程用のテキスト『教職を目指す人の世界史概論』に集約される予定であるほか、研究成果の一部は、2014年6月に刊行予定の『史海』第61号、ならびに2014年9月に刊行予定の『歴史評論』第774号に掲載される予定である。